

ふじミュージアム自然系文化祭 自然史しずおか祭 2018

横山謙二

10月30日～11月9日にかけて、ふじのくに地球環境史ミュージアムの秋のイベントとして、ふじミュージアム自然系文化祭『自然史しずおか祭 2018』を開催しました。このイベントは、昨年も開催したイベントで、ふじのくに地球環境史ミュージアムで働く、研究員、NPO 自然博ネット関係者、サポーターなどのミュージアム関係者の自然・環境史に関する研究や活動についてポスター発表するイベントです。このイベントの趣旨は、私たちの研究や活動について多くの人たちに理解していただくために行っています。今年も昨年同様多くの方が、このイベントに参加してくれました。

発表テーマは、22テーマで、地質・化石関係が4、環境史1、昆虫9、哺乳類1、鳥類1、魚類1、貝類1、植物4テーマで、昨年と同様に昆虫に関する研究が多く発表されました。発表内容は、分野の違うテーマばかりでしたが、静岡県内の研究テーマがほとんどで、県内で見られた生物相の生態に関する新知見や、環境変化に関する生物相や環境変化、さらに日本平の地質や化石についてなどミュージアム周辺を研究テーマにしたものも多数発表されました。

最も身近の話題として、本号P7で紹介しているミュージアムサポーターの篠崎 勇さんの報告で、ミュージアム内の池で観察したヒロヘリアオイラ幼虫の生態的な記録です（詳細はP7参照）。

多くの発表は、自然の調査・記録によるものでしたが、今年初参加のミュージアムサポーターの寺内さんが発表した『植物を「作る」- 立体植物図鑑の試み -』は、実物そっくりの植物模型と制作方法についての発表もありました。展示された模型は、実際の植物の細部や色彩など、細かなところまで正確につくられた植物模型（現在、この植物模型はミュージアム2階講座室Cに展示しています）は素晴らしいものがありました。この技術は他の標本に



自然史しずおか祭：地質・昆虫分野



自然史しずおか祭：植物、哺乳類、鳥類、貝類

についても応用ができるのではないのでしょうか。

11月3日のコアタイムの日は、多くの発表者の方の参加があり、来館者に自分の研究の説明や他の発表者との意見交換などを行いました。コアタイムでは、多くの来館者に来ていただき、私たちの研究や活動内容について理解を深めていただけたと思います。

来年も『自然史しずおか祭』を開催したいと思います。みなさんも、自然史に関する身近な発見や、これまでの記録や研究、また自然教育等の団体の活動など、多くの人に伝えたい、知ってもらいたいことがありましたら、ぜひ参加してください。